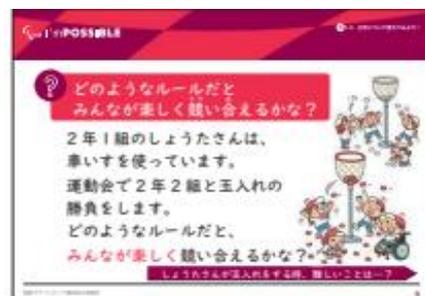


「ICT を活用した公平を考える研究授業」

#公平 #ICT活用 #研究授業 #全員の意見を共有

学校名	札幌市立上白石小学校
実施教科	総合的な学習の時間
授業担当者	乙坂 翔大
授業時間	45分×3回
実施対象	3年生(1クラス 32名)
授業のねらい	<p>○障がいの有無を越えて共にスポーツを楽しむことができる工夫を考える活動を通して、「公平」の意味について考えを深める。</p> <p>○教材を通じた学びを実生活の中に活かしていくことで、共生社会を考えるきっかけとする。</p>
使用ユニット	<p>1-2:パラリンピアン香西選手ってどんな人だろう？</p> <p>2-4:ポッチャをやってみよう！</p> <p>1-3:公平について考えてみよう！</p>
活用方法	<p>◆ユニット活用順 ①1-2②2-4③1-3</p> <p>≪①③の学習内容≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ミライシードのムーブノートを活用し、資料やワークシートを配付する。 ○発問とムーブノートによる資料提示を組み合わせ、児童の問題意識を生む。 ○自力解決の時間に「ひろば」で考えを記入したワークシートを見合うことで、ひと通りの交流を経たうえで全体交流に向かう。 <p>≪②の学習内容≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実際にポッチャの活動をすることで、誰でもできることの楽しさを実感する。
児童のコメント	<p>○よかれと思って作ったルールでも、相手にとってはいやなのかもしれないから、しっかり本人の意見を聞くことが大切だと思いました。自分も何かルールを設ける時は、相手のことをしっかり考えてルールを作ろうと思いました。</p> <p>○「みんな平等」も大切だけど、「みんな楽しく」というのも大事なのだと思いました。勝手にルールを作らず、「どう？」と尋ねてから決めた方がいいと思いました。</p> <p>○(1-3 公平のディスカッション)「クラス対抗の玉入れ競技。クラスに車いすを使っているお友達がいます。皆が楽しく競うためのルールとは？」という問いに対するディスカッションの一場面。</p> <p>Aさん「みんなすわると(中略)しょうたさん(車いすのお友達)と同じ条件になるから公平ってことになる」(拍手)</p> <p>Bさん「つまりみんなこの状態で玉入れをすればしょうたさんと同じで平等ってことになる」(拍手)</p> <p>Cさん「わかるけどね、自分はそれに賛成できない。しょうたさんは前から車いすを使っているけどみんなは車いすを使ったことがないと思うから逆に不公平になると思う。」(拍手)</p> <p>*上記以外にも活発な意見交換が行われた</p>



先生コメント	<p>《授業を実施して》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが香西選手の生き方や公平な競技のあり方について真剣に考え、発言している姿が印象に残った。 ・障がいの有無を越えて、児童一人一人が他者意識の大切さに迫れたと考える。 ・互いに尊重し合おうとする学級風土を育む大切な要素となった。 <p>《工夫した点》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導案の分析とムーブノートを活用した学習展開の工夫 ・児童の実態に即した学習展開の工夫(選択肢の導入等) ・広げる・深める・揺さぶる等の教師の関わり <p>《感想》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成された指導案や配付資料があることで、授業の準備時間の多くを展開の細部や教師の関わりにとることができた。 ・一方で、指導案に記された発問や提示資料の意図やねらいについて指導者が理解できるようさらにじっくり分析し、読み取る必要があると感じた。 ・優れた教材・指導案の力によって生まれた児童の気付きを広げ深める教師の関わりが求められるのだと改めて感じた。 ・札幌市の重点「人間尊重の教育」に通ずる「共生社会について考える学習」に大変価値と意義を感じた。その授業を校内、地域、幼保・小中一貫パートナー校に公開することでオリパラ教育・人間尊重の教育・ICTを活用した教育をどのように具現化していくか、共に考えていくきっかけづくりとすることができた。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ミライシードとの組み合わせにより、自力解決とともに他者の考えに触れる場をもつことができ、その後の全体交流では児童の意識が二段階も三段階も進んだ状態からスタートできた。 ・「限られた時間の中での交流からいかに深い学びを生んでいくか」の問いに対し、一つの答えとして「ICT機器を活用した問題解決」となると考える。「一瞬」で共有し、「じっくり」検討し合う新しい形の学び合いの確立が急務であろう。 ・アトムポシブルの実践を通して、「豊かな心の育成」「思いやりの心を育てる」教育が具体化できることを実感できた。子どもが真剣に話し合う中で他者意識の大切さに気付き、みんなが満足できる時間の素晴らしさを再認識できたことが大きな収穫となった。

